

ところざわ倶楽部

野老澤の歴史をたのしむ会 活動報告

歴史講座「神社・仏閣の建築様式」

- ★実施日 令和元年（2019年）9月5日（木）14:00～16:00
- ★会場 中央公民館1・2号室
- ★参加者 35名（会員26名、会員外9名。男性25名、女性10名）

●講師：天野保治氏

昭和9年生まれ、愛知県出身 所沢市北秋津在住（居住歴53年）

1級建築士（池田建設に40年勤務、神社仏閣の修復、復元等に関与）

平成28年7月「名人・達人に聞く会」で「絵筆で巡る所沢の神社・仏閣」のテーマで講師を務めました。

趣味は、水彩画、油絵（夫人との「二人展」を20年間開催）、家庭菜園



講座チラシに貼り付けた講師のスケッチ画、所澤神明社（左）と新光寺（右）

●配布資料とスケッチ画展示

神社と仏閣の立面図と平面図及び所沢市内の地区別神社と仏閣のリストを配布

（市内の神社は50社、仏閣は47寺あり、講師は全ての寺社をスケッチし、神主さんや住職とも懇意にしている方がおられるそうです。）

講師直筆の神社仏閣のスケッチ画を展示（写真参照）



●講座内容（報告者の印象に残ったことを記載）

1. 神社について

- ①建築様式主なものは、神明社造り（所澤神明社、牛沼神明社、富岡神明社）、大社造り（中氷川神社）、流れ造り（上記以外の所沢市内の神社はこの様式）で、他に春日造り、八幡造り、住吉造りなどがある。
- ②社殿の屋根には、千木（ちぎ）と鯉木（かつおぎ）が備えられており、千木の形と鯉木の数が、男の神様と女の神様を表すとの説があるが、必ずしもその通りではない。



先端が尖っている千木（男神）



先端が水平になっている千木（女神）



屋根の上にある丸太の様なもの鯉木で、奇数が男神、偶数が女神というのが俗説。

- ③鳥居の形は、神明鳥居と明神鳥居の二つが代表的である。
- ④三ヶ島地区に「山の神神社」があるが、早稲田大学の駅伝選手が毎年箱根駅伝の前に参拝に訪れるとのことである。

2. 仏閣について

- ①伽藍配置は、山門、本堂、鐘楼、客殿、庫裡が一般的で、本堂の屋根は入母屋造り、寄棟造りが多い。
- ②本堂の堂内は、内々陣の中央に本尊、そして上部に仏天蓋があり、導師の座の頭上に任天蓋がある。
- ③富岡地区の多門院では毎年5月に寅祭りが行われるが、境内入り口には狛イヌでは

なく、狛トラが配置されている。

3. 追記

この講座では、レジュメ・寺社の建築様式図面・スケッチ画がデータ保存されている講師持参のパソコンに、ところざわ倶楽部から借用したプロジェクターを繋いで壁に映像を映すことにしました。ところが接続が中々うまく行かず焦ってしまいましたが、受講者として参加された、ところざわ倶楽部の玉上広報部長に操作して頂いたお陰で、無事に放映することが出来大変助かりました。紙面を借りて御礼申し上げます。



文責：山田 武